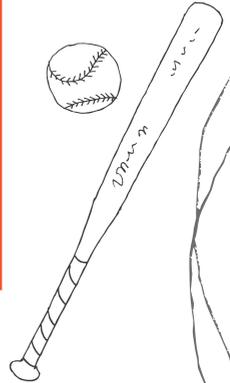


豊橋ライフスタイルブック

クラストコ

暮らすとこ

VOL.05



支える

クラストコ＝暮らす＋とこ

私たちが住む愛知県豊橋市は、日本のほぼ中央に位置する
人口38万人の、都会すぎず田舎すぎない
「ほどよく住みやすい、ちょうどいい街」です。

豊橋に「暮らしてほしい」「暮らし続けてほしい」という思いで、
クラストコは平成29年3月に創刊。
これまで「愉しむ」「働く」「育つ」「学ぶ」と、ライフステージに沿った
豊橋ならではの女性の暮らし方を提案してきました。

最終号となる今回のテーマは「支える」。
伝統ある祭りを守る方や商店街を盛り上げる学生など、
さまざまな支え合いに関わる方々を紹介します。

豊橋らしい、支え合いのかたちとは…。

豊橋があなたにとって、一生のクラストコでありますように。



クラストコ ~支える~ CONTENTS



01 クラストコ=暮らす+とこ

04 私たちが暮らす街「豊橋」でみんなで支え合う

07 **津田** 地域で子育て
きりん食堂

白井 佐知子さん



10 **牟呂・汐田** みんなで楽しむ
むろ😊しおたスマイルフェスティバル

杉浦 五月さん



14 **幸** 受け継ぐ伝統の祭り
花祭り

鎌形 あゆみさん



18 **コラム** 地域を盛り上げたい01
豊岡発展会



20 **コラム** 地域を盛り上げたい02
花園ぷらす



22 **天伯** 生活を支え合う
ひだまりの会

中山 道子さん



26 **前芝** 海岸・干潟を学ぶ
みなと塾

岩口 啓恵さん



30 **嵩山** スポーツで元気な地域
スキッツ

鈴木 三和子さん



34 **二川** 美しい景観を守る
二川さくら守の会

梅岡 愛子さん



38 取材を終えて

40 クラストコができるまで『取材の裏側』

42 クラストコインスタグラム生配信

44 クラストコMAP

46 編集後記

48 おわりに



私たちが暮らす街
「豊橋」で
みんなで支え合う

私たちが暮らす街 豊橋には
52の小学校校区があり、
それぞれに特色や魅力があります。
これから先、長く住む場所だからこそ、
支え合うことはとても重要。
豊橋だからこそできる
校区ごとの支え合いや、さまざまな行事、
取り組みなどを紹介します。

※校区とは小学校の通学区域のこと



05

前芝 校区
岩口 啓恵さん



02

牟呂・汐田 校区
杉浦 五月さん



01

津田 校区
白井 佐知子さん



06

嵩山 校区
鈴木 三和子さん



03

幸 校区
鎌形 あゆみさん



07

二川 校区
梅岡 愛子さん



04

天伯 校区
中山 道子さん



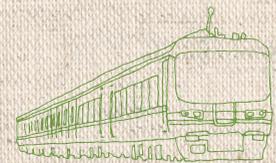


みんなで子どもを育てる! 笑顔あふれる「きりん食堂」

市の北部に位置する津田校区。豊川に囲まれた街で、新幹線などが通過するため撮影スポットとして全国の鉄道好きからも愛されています。津田校区の子どもや保護者を対象に食事を提供する、子ども食堂「きりん食堂」を運営する白井さん。

きりん食堂を立ち上げたきっかけや津田校区の魅力を紹介します。

地域で子育て 津田校区



Profile

白井 佐知子さん (53歳)

蒲郡市出身。結婚を機に津田校区へ。地域のバレーボールクラブを通して近所の人とつながりを深め、子ども食堂「きりん食堂」を立ち上げた。

「子育ては地域みんなで。受け入れてくれた津田校区に感謝!」

結婚と同時に津田校区へ。世話好きな性格から、知り合いや近所の子どもに、「ご飯食べていきん!」と声を掛け、みんなで料理を囲んで楽しく食事をしていました。もともとたくさんの子供たちに料理を思いっきり食べてもらいたい、今までお世話になった地域への恩返しをしたいと思い、安価で栄養のある食事を提供する「きりん食堂」

を立ち上げることを決意しました。「他市から引越して来た人が孤独にならないようにしたいと思っています。子育ては家族だけではなく、地域全体で行うことが大切。きりん食堂を通して、近所の人と人の支え合い、つながりができたらいいなと思います。」と語ってくれました。

きりん食堂では、寄付された食材を使った料理などを提供。



子ども大人も笑顔になるきりん食堂。

笑顔大好き
きりん食堂

クラストコ対談
地域で子育て

津田 対談



「きりん食堂」のメンバー

白井さん 「きりん食堂」を立ち上げるにあたって、料理のことはもちろんですが、地域とのつながりや絆の大切さとか、メンバー全員でいろんな話をしましたね。

中原さん 私は小学校のPTA会長をしていて、地域の子どもたちのために何かできることはないかなと思っていてところに、きりん食堂の話があり、素晴らしい取り組みだなと思い参加しました。

中村さん 津田校区は世帯数が少なく、地域の人はほとんど知り合いだからこそ、みんなで助け合うことを大切にしている街だと感じます。

屋野さん そうそう。子ども同士のつながりも多いので、家族だけでなく近所の人も支え合いながら暮らしているのが津田校区らしいですね。田舎だけど、豊橋駅からも近くて交通の便がいいのもポイント!

伊藤さん 私は別の校区に住んでいるのですが、津田校区は瓜郷遺跡や豊川、電車など、いろんな景色が楽しめるのがいいなとうらやましく思います。

白井さん ここまでバリエーションに富んだ校区はない!と言うくらい、あらゆるものがこの校区に凝縮されていますね。休日になると遠方の方が電車や風景を撮りに訪れます。個人的には、下地駅も大好きで、ローカルな雰囲気に「津田らしくていいな」と感じます。



伊藤 佳子さん (60歳)

屋野 浩子さん (54歳)

中原 祐也さん (41歳)

中村 正子さん (50歳)

白井さん
イチオシ!



津田校区 おすすめスポット



下地駅周辺の絶景

昭和49年に建てられたJR下地駅の周辺には、壮大な豊川や新幹線、名鉄電車などを見ることが出来るスポットがあります。ローカルでレトロな駅舎も魅力です。

ドクターイエローも通る!



改札を通り抜けると、ホームとホームの間に椅子が並び、レトロな雰囲気を醸し出します。



下地駅近くを走る東海道新幹線。運が良いとドクターイエローを見ることができます。



豊橋駅へ向かう電車と山、豊川の絶景。撮り鉄にも人気の撮影スポットです。



下地駅を通過する名鉄電車。鉄橋を渡る名鉄電車の音が迫力満点です!

白井さんにとって「支える」とは?



他人でも声を掛け合うことが、支え合うことだと思います。この街にずっと住み続けるからこそ、子どもからお年寄りまで、年齢を問わずみんなで支え合うことができたらいいですね。



みんなで
楽しむ
牟呂校区

ワイワイ楽しめるイベントで
地域全体を活気付ける

市の中心部から西部に位置する牟呂校区。昔のような活気を取り戻したいという思いから、平成29年に地域住民が立ち上げたイベント「むろおしおたスマイルフェスティバル」の実行委員となった杉浦さん。

イベントを立ち上げたきっかけや牟呂・汐田校区のおすすめスポットなどを紹介します。



Profile
杉浦 五月さん(43歳)
子どもの工作教室「アトリエびえ」の講師。地元の店主が集まり開催した「むろおしおたスマイルフェスティバル」の実行委員。

「昔と今が混在する校区。地域のつながりをより深めたい。」

結婚を機に牟呂校区に移り住んだ杉浦さん。「この地域に住んで約20年。昔から住んでいる人と新しく住み始めた人が混在しているこの校区は、私のように元々つながりがない人でも受け入れてくれました。地域に感謝の気持ちを込めて子ども向けの恩返しをしたいと思っていました。」
平成25年から子ども向けの図工教室を主宰していた杉浦さんは、牟呂・汐田校区の店主たちと共に、農産物の

販売や飲食、ミニゲームなどを多世代で楽しめる「むろおしおたスマイルフェスティバル」を平成29年に企画。イベントでは、明照保育園児や和太鼓チームなどが出演するステージもあり、この地域ならではの「牟呂と汐田は年齢に関係なくつながりが深い地域です。家族ぐるみで仲が良い人も多いですよ。」と楽しそうに話してくれました。



作って
楽しいね!

工作の楽しさを伝える杉浦さん。



むろおしおたスマイルフェスティバルに参加する保育園児。

クラストコ対談
みんなで楽しむ

牟呂 対談



杉浦さん 現在は高校生の息子が明照保育園に通っていたこともあり、中島園長にはお世話になっていました。「むろ◎しおたスマイルフェスティバル」を開催する時も色々相談に乗っていただきましたね。

中島さん イベントを行うと聞いた時に、地域を盛り上げようとするのは素晴らしい!と思い、園でできることは全力でサポートしたいと話しました。当日、子どもたちがステージでいきいきと踊る姿を見て、とてもうれしく、校区全体で盛り上がっている雰囲気が良かったです。

杉浦さん 牟呂・汐田校区の人はとても親切でアットホーム。助けてもらうことも多くて、イベントを通して、この地域に住んでいて良かった!と改めて感じました。

中島さん 昔、この地域は農漁村でした。今は新しい住宅も増えていますが、仲間意識が強く隣近所のことをよく知っているのも特徴ですね。

杉浦さん ママ友とは「公園がたくさんあるのが良いね!」と話しをしていて、子育て中のパパやママにはぴったりの環境かなと思います。牟呂・汐田校区と公園とのつながりが深いと感じていました。イベントも、地域の人たちに親しまれている宇宙公園(東脇公園)で行いました。

中島さん そうそう! 園児も近くの公園で活動することが多いです。特徴をもった公園があるので遊び方もいろいろですね。



明照保育園園長
中島 章裕さん(59歳)

杉浦さん
イチオシ!



牟呂・汐田校区 おすすめスポット



公園巡り

牟呂・汐田校区には、29か所の公園があります(令和3年1月時点)。特徴のある公園が多く、地元の人から愛されています。

東脇公園 東脇2-2-8

「宇宙公園」と呼ばれ親しまれている広々とした公園。宇宙船をイメージした遊具などがあり、「むろ◎しおたスマイルフェスティバル」の会場として活用しています。



ゆきあい 行合公園 東脇4-13-8

野球などができる広いグラウンドとブランコや滑り台などの遊具が併設する公園。小さな子どもを連れたパパ・ママたちが多く利用しており、休日はキャッチボールやサッカーを楽しむ子どもたちで賑わいます。

市場公園 牟呂市場町27-16

季節の花が楽しめる公園。大小さまざまな遊具が設置されており、小さな子どもでも安心して遊べます。ゲートボールを楽しむ高齢者も多く、幅広い世代に親しまれています。



杉浦さんにとって「支える」とは?

人と人が協力し、支え合いながら生きることだと思います。私は、この先もこの校区で暮らしていくので、このイベントを通して知り合った仲間や、さまざまな場面で手を貸してくれる人々とのつながりの大切さをこれからも感じながら生きていきたいなと思います。

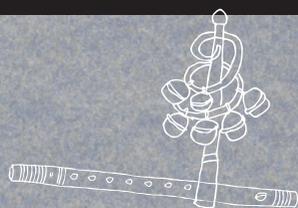


受け継ぐ 伝統の祭り 幸校区

先祖の故郷に思いを込めながら
郷土の祭り「花祭り」をここ豊橋で。

奥三河エリアの伝統的な祭りとして知られている「花祭り」。幸校区でも地域の伝統行事として「花祭り」が行われており、祭りに参加する鎌形さん。

花祭りに込める想いや歴史について紹介します。



Profile

鎌形 あゆみさん

生まれも育ちも幸校区。両親が奥三河出身で、花祭りには幼い頃から参加。現在は御幸神社花祭り幹事会のメンバー。

「私たちの誇り“花祭り”。これからも受け継いでいきたい。」

昭和31年の佐久間ダム建設により、豊根村の水没集落から多くの方が幸校区に移り住みました。移住者が開拓者の守り神として建立した御幸神社では、昭和31年から豊根村の伝統の祭り「花祭り」を開催し、今でも毎年1月4日に行われています。

「私の祖父は豊根村からの移住者。両親も奥三河出身だったこともあり、物心ついた時から花祭りに参加することが当たり前でした。結婚・出産を機に、花祭りから少し離れたましたが、また花祭りに参加したいと思い、お囃子

の一員として笛を吹いています。今では花祭りをやらないと1年が始まらないと思うほど魅力にハマり続けています。」

豊根村の花祭りと同様、赤鬼・青鬼が現れて鬼の舞が始まり、「テーホへ、テホへ」という掛け声と共に夜が更けていく。先祖の故郷に想いを馳せながら、地域に根付いた祭りは、今でも大切に受け継がれています。



地域の子も達も参加します。



花祭りに使用される横笛。

クラストコ対談
受け継ぐ伝統の祭り



御幸神社花祭り幹事会の女性メンバー

幸

対談



鎌形さん 当初、御幸神社の花祭りには男性と子どものみが参加していましたが、井上さんがお囃子の一員になったことで「女性でも花祭りに参加していいんだ!」と、私もメンバーに加わりました。

井上さん 私は豊川市から結婚と同時に幸校区へ移り住みました。花祭りは男性の祭りというイメージでしたが、夫や息子が参加している姿を見て、私も参加したい!関わりたい!と、お茶出しから始めました。代表に「お囃子をやりたい。」と志願し、認められた時はすごく嬉しかったです。

久野さん 私は豊根村出身で、今は別の校区に住んでいるのですが、花祭りがある幸校区の子どもたちに伝統を守ること、受け継ぐことの大切さをもっと知って欲しいと、花祭りの魅力を紙芝居にし、小学校で出前講座をしています。

井上さん 幸校区には開拓者の子孫と、新しく住み始めた人が混在しています。地域のおじいちゃんやおばあちゃんたちが、子どもたちを見守り続けている姿勢も、この地域の魅力かな。

久野さん 氏神様を祀る神社があるというのも素晴らしいことですよね。御幸神社に来るたびに、心癒されます。

鎌形さん 私もウォーキングする時に必ず立ち寄ります。地域の氏神様をこれからも大切にしながら、次世代に花祭りを受け継いでいきたいです。



井上 花純さん



久野 愛子さん



鎌形さん
イナオシ!



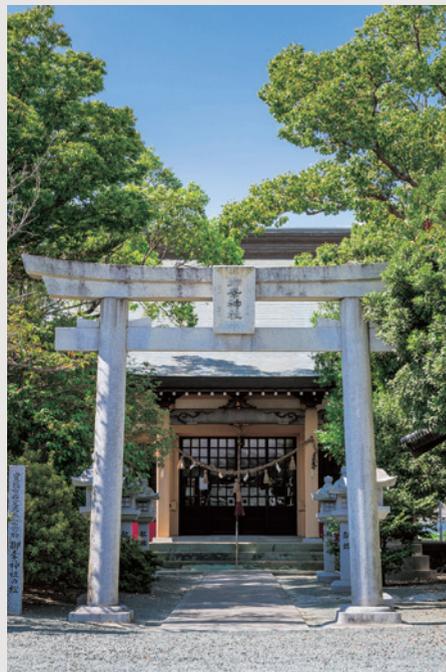
幸校区 おすすめスポット



心癒される御幸神社

三河国一之宮砥鹿神社を本社と仰ぎ、昭和24年に建立されました。

御幸神社 | 西幸町字古並240



境内

地元の人がお参りする姿も多く見られます。



石碑

境内には、開拓記念碑も建っています。



夕暮れ

御幸神社の木々から漏れる夕日は、地元でも人気。



鎌形さんにとって「支える」とは?

地域の人のつながりを深め、暮らしている街を大事にすることです。祭りを通して、先代の想いを受け継ぎたいと願う気持ちや地域への愛着が芽生えました。歳を重ねるごとに、人と人が支え合うことの大切さを体感しています。これからのこの校区を大事に想い、みんなで支え合っていきたいです。

地域を盛り上げたい

市内には、校区を越えて、飲食店や商店街などを盛り上げる動きもあります。豊岡地区と花園地区の2つの取り組みを紹介します。



若い世代を中心とした「発展会」
活気ある場づくりを提案!

飲食店などが数多く集まる豊岡地区。その店主たちが集まり企画しているイベントが、平成28年からスタートした「スポーツパークフェス」です。「もっと豊岡地区を盛り上げたい」という店主同士の想いを形にするため、この地域の代表的スポットの岩田運動公園で、飲食やワークショップなどが楽しめるイベントをスタートしました。」と話すのは、代表の松井さん。今年度は、東三河最大級のビアガーデンをコンセプトに9月にイベントを開催し、市民球場内にはステージも出現し、太鼓演奏やダンスパフォーマンスなどが行われました。「近所のお祭りのような感覚で、笑顔で楽しく過ごせる場所をこれからも提案したいです。」と松井さんが話してくれました。

これからも地域を
盛り上げます!



人が集う場所
岩田運動公園で
フェスを実現
豊岡発展会



豊岡発展会の取り組み



打ち合わせ

イベントの3か月ほど前から
打ち合わせをスタート。

このチラシを見て近所の方ももちろん、
市内外からたくさん人が集まります。



イベント風景



さまざまなお店のカラフルなテントが並びます。



家族連れなどで大賑わい!
ピクニックのような気分で楽しめます。



(平成30年のようす)
イベントの最中はバスケットボール
などのスポーツは大盛り上がり。



たくさんのキッチンカーも出店し、
美味しそうな香りに包まれました。



Profile

滝尾 美結さん

愛知大学
地域政策学部2年生
地域貢献事業「花園
ぶらす」副代表
名古屋出身

Profile

村瀬 公平さん

愛知大学
地域政策学部2年生
地域貢献事業「花園
ぶらす」代表
北名古屋出身

花園商店街を活性化するために、
さまざまなイベントを企画

「花園商店街の賑わい創造」を目標として活動する、愛知大学の地域貢献事業のひとつ「花園ぶらす」。夏祭りのお花見屋敷の製作やお花見イベント、ミニゲームなど、幅広い世代に花園商店街を訪れてもらう仕組みづくりを行っています。

「賑わいのある商店街となるよう、小さな子どもが楽しめるイベントなどを企画しています。花園商店街は、とても穏やかな方が多い商店街で、イベントの準備をしても優しく見守ってくれます。今後は商店街全体の分析・調査をして、花園商店街にどんな人が来ているのか?何を求めているのか?などをリサーチしながら、より良い商店街を考えていきたいと思っています。」と村瀬さんが話してくれました。



人が集う場所

商店街に賑わいを
取り戻す
花園ぶらす

花園ぶらすの取り組み



打ち合わせ

花園商店街の人たちとの会話は欠かさない!
生の声を拾いイベントに生かします。

イベント風景

イベントには子どもから大人まで
多くの人が校区外から訪れます。



子どもたちにも分かりやすいように
手書きの会場マップを考案。



夏祭りの目玉企画として人気の
お花見屋敷の企画・製作。



ちくわ焼き体験やハロウィンイベントなども実施。



花園商店街の人の流れや、年齢層などの
分析・アンケートを行います。



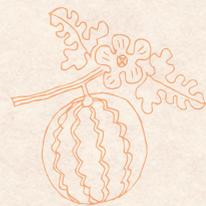
生活を
支え合う

天伯校区

高齢者の困りごとを 校区で解決する!

畑や田んぼが広がる天伯校区。その中にある天伯団地では、自治会と協力して、支え合い活動に取り組んでいます。その支え合い活動などに参加して天伯団地のために活動する中山さん。

天伯校区の特徴や、「ひだまりの会」について紹介します。



Profile

中山 道子さん

民生委員を5期務める中で、地域の中で支え合う活動ができればと天伯団地の支え合い活動「ひだまりの会」の立ち上げに携わった。

「高齢者が多い場所だからこそ、支え合うことが大事。」

天伯団地は昭和46~48年にかけて誕生。この地域に移り住んだ人が歳を重ね、住民の約80%が65歳以上になりました。高齢者の一人暮らしも多く「みんなと気軽に集まれる場所がほしい。」「日々の買い物に困る。」などの声がきっかけとなり、平成28年に「ひだまりの会」ができました。活動内容は、高齢者の買い物の付き添いや草むしり、通院の送り迎えなどさまざま。住民同士でお互いを支え合いながら「元気な天伯団地」を目指しています。生活を支えるだけでなく、天伯団地公民館でおしゃべりをす

る居場所づくりや健康を保つための健康教室なども行っています。活動の中には手芸クラブもあり、コロナ禍では手作りマスクを作って天伯団地に配布し、喜んでもらえました。コミュニティがあることであいさつが増えたのも嬉しかったです。互いに支え合う活動を通して、団地内だけではなく校区の連携をより深めていきたいです。」と中山さんは話してくれました。



健康を保つための健康教室も開催。



地震の際に安否確認をするための黄色旗を製作中。



買い物などの付き添いで生活を支えます。

みんなで
手作りしています!

クラストコ対談
生活を支え合う

天伯 対談



横田さん 自治会長をしていた時に「もっと天伯団地を良くしたい」という思いが強くなりました。住民に何を必要としているのか?と聞いた時に、「みんなでおしゃべりがしたい」、「病院が遠いから通院が大変」などの悩みが出てきて、それなら互いに協力し合いながら“みんなのできること”をやろうと思って、「ひだまりの会」ができました。

中山さん この会ができてから、住民同士の連携が深まりました。特にそう感じたのは「防災訓練」。高齢者が多い校区なので、震度5弱以上の地震が来た時に、家の前にある植木鉢などに黄色の旗を立てていれば元気・大丈夫と知らせる仕組みを作りました。若い人たちが旗の有無を確認し、旗がなかったらすぐに助けが必要だと対応できます。協力してくれる住民には感謝です。

横田さん 天伯は田んぼや畑も多く、アクティブで明るい農家さんがたくさん!買い物の付き添いなどをするほど、世話好きな人が多いので互いに支え合うことができているのかなと思っています。

中山さん ところで、天伯と言えば天伯スイカ! 遠方のファンも多いですね。もっといろんな人に「天伯スイカ」を知って欲しいです!

横田さん 「天伯スイカ」は天伯校区の名物。このスイカを食べないと夏が始まらないと思うくらい大好きな果物です。とてもこだわって作っているのです、ぜひ味わって欲しいですね。

天伯団地自治会長
ひだまりの会 副会長
横田 順一さん

中山さん
イチオシ!

天伯校区 おすすめスポット



豊橋技術科学大学

天伯町雲雀ヶ丘1-1



留学生も多い国際的な環境のもと、機械工学や建築、情報・知能工学などの課程・専攻があり、次代を切り拓く研究を行っている工科大の国立大学。新しくきれいな図書館は、地域住民も利用できます。

豊橋南部青果

天伯町字東天伯82-22



農産物などの卸売を行っています。夏には、天伯スイカのほか、メロンなどの農産物が数多く販売され、多くの方が訪れます。

天伯スイカ

天伯スイカの歴史

天伯校区では昭和初期からスイカの栽培を行っており、甘く質の高い「天伯スイカ」はブランド化され、豊橋の名産品として知られています。



天伯スイカの味わい

冬でも比較的温暖な気候で、春は適度に雨が降る豊橋で作られるスイカは実に旨味が詰まっており、甘みとシャリッとした食感が特徴です。出荷は6月がピークで、約4,000トンのスイカを市場に出荷しています。



自慢のスイカは
甘みたっぷり!
ぜひ、味わってみて
くださいな。



天伯スイカ農家
中田 ひろ男さん

天伯校区で30年以上スイカ農家を営む。

中山さんにとって「支える」とは?

ご近所さん同士で助け合うこと。昔のことわざで、「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があります。いざという時は、身近な他人にお世話になるのです。だからこそ、今周りの方のために自分ができていることをやっています。



Profile

岩口 啓恵さん(61歳)

結婚後に前芝校区へ。2人の子とも
と4人の孫を持つ。「前芝ここに
こサークル」を立ち上げ、おはなしサ
ークル「ほっほの会」や環境保全活
動をする「みなと塾」にも在籍。

海岸・
干潟を学ぶ
前芝校区

潮風を感じる
海岸・干潟に心癒される

とよがわ
豊川河口の三河湾に面している、前芝校区。日
本を代表する干潟としても知られている六条潟
のある校区です。

環境保全活動をする「みなと塾」や、子どもた
ちのためのおはなしサークル「ほっほの会」など
の活動や、校区の魅力を紹介します。



「子どもたちを校区全体で見守っているのが、前芝校区の魅力」

明るい笑顔が印象的な岩口さんは、校区の民生委員や
子育てサポーターとしても活動しています。子どもたちに
読書の楽しさや大切さを知ってほしいと、絵本などの読み
聞かせをしている「ほっほの会」に参加し、「前芝ここに
こサークル」の立ち上げにも携わりました。校区の中でも
“岩口さんに何か相談すれば解決してくれる!”と思ってい
る方が多く、とても人望が厚い方です。

子どもたちを見守る活動だけではなく、前芝海岸
や六条潟を守る活動もしている岩口さん。「みなと
塾」での活動を通して、前芝の子どもたちに浜の大
切さを伝えています。「前芝は、小・中学校が一貫校
で、みんな知り合いのような感覚。これからも自分ら
しくできることをやっていきたいなど思っていま
す。」と話してくれました。



保育園での手作り紙芝居や絵本の読み聞かせでは、子どもた
ちとのふれあひも大切にしている。

「前芝ここにこサークル」での一コマ。
子育ての悩みを聞きながらアドバイスも行う。



クラストコ対談
海岸・干潟を学ぶ

前芝 対談



加藤さん 岩口さんは前芝校区になくてはならない人。私が民生委員の会長をやっていたときに「みなと塾をお手伝いしてくれる?」と声を掛けたら、すぐに「いいですよ!」と快く返事をしてくれて、すごく嬉しかったです。

岩口さん 「みなと塾」の活動の一つに「はまレンジャー」というのがありますよね。前芝保育園の浜あそびや、前芝小学校の3・4年生が干潟観察をする活動を手伝っています。子どもたちが干潟のことを知って体感するのは大事ななと思っていたので、私にできることはどんなやっしていきたいなど。

加藤さん 六条潟は、日本でも数少ないアサリの種子(稚貝)が湧く貴重な干潟です。子どもたちが浜で生き物を探することで、前芝海岸と親しくなって、浜を大事にする気持ちを育ててもらえると嬉しいです。

岩口さん 「みなと塾」の活動の中には、「前芝川灯ろうまつり」もあり、園児や小学生など校区の人たちが手作りした800個以上の灯ろうが川沿いに並びます。この活動を通して、地域とのつながりがさらに深まったなど実感しています。

加藤さん 今後も、前芝校区だからできること、前芝ならではの学びを、海岸・干潟を通して伝えていきたいと思います。

岩口さん この干潟から見る景色は、私たち住民にとっては大切。潮が引いている時と、満ちている時の雰囲気が全く違って面白いです。夕日が沈む瞬間をここから見る人も多く、地元で愛されている浜です。



「みなと塾」代表

加藤 正敏さん(77歳)

岩口さん
イチオシ!



前芝校区 おすすめスポット



表情を変える前芝海岸

潮の香りが広がる前芝校区。前芝海岸では、潮の満ち引きで景色がグッと変わります。

潮が満ちると...



潮が満ちると釣りを楽しむ人が多く訪れます。ハゼなどいろいろな魚を釣ることができるので、釣り好きにはおすすめです。

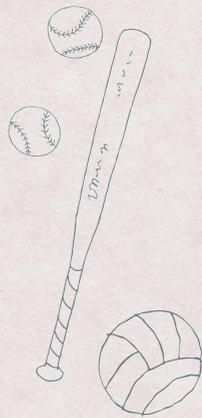
潮が引くと...



特徴的な泥性質の干潟が一面に広がります。貝類やカニ類などの生き物が見られ、潮干狩りを楽しむ方もいます。

岩口さんにとって「支える」とは?

相手の気持ちに寄り添うこと。私は人に恵まれ互いに支え合いながら生活することができています。これからも、さまざまな活動を通して、校区の方々の居場所を作っていきたいです。



スポーツで 元気な地域 高山校区

スポーツを通じて 地域を元気にしたい！

四季折々の自然の風景が美しい高山校区。遊び感覚でスポーツを好きになってもらいたいと、地域のスポーツクラブ「SKITS」が活動しています。クラブの立ち上げにも関わり、今でもSKITSの事務局として活躍する柿農家の鈴木さん。

SKITSに対する思いや校区の魅力を紹介します。



Profile

鈴木 三和子さん (60歳)

高山校区で生まれ育ち、柿とお米を育てる農家。校区スポーツ推進委員になったことをきっかけに、平成18年に総合型地域スポーツクラブ「SKITS」を立ち上げた。

「子どもたちがコミュニケーションを深める場所を作りたい。」

石巻地域の人を対象としたスポーツクラブ「SKITS」。S=高山、K=賀茂、I=石巻、T=玉川、S=西郷の地区名の頭文字から名付けました。地域の人ボランティアで、バレーボールやバスケットボール、ポッチャの講師をしています。スポーツが大好きな鈴木さんは、小・中学生の子どもたちにスポーツの面白さを体感してほしいと、学校の先生と協議を重ねてクラブを立ち上げ、今では300人以

上が所属しています。

「日常的に運動をすると心と身体が鍛えられるのはもちろん、いろいろな年代の人が参加しているので、地域のコミュニケーションや絆が感じられます。これからも、次世代のための地域づくりの活動としてSKITSがあればいいと思います。」と話してくれました。

地区名の
頭文字から
つけた名前



障害者のためのスポーツ教室も開催。



毎年、秋になると柿の出荷で大忙し！

クラストコ対談
スポーツで元気な地域

高山 対談



鈴木さん 高山小学校とSKITSの連携はとても深く、月に1回授業が終わった後にスポーツをする「スポーツの日」というのがあって、私も講師として参加しています。

大塚さん 遊びながらいろいろなスポーツを体験することで、子どもたちもリフレッシュできます。鈴木さんは柿農家でもあるので、小学校の畑の手入れや植え方なども子どもたちに教えてくれて、とても助かっています。

鈴木さん 長く小学校と関わっているので、大学生や社会人になった子たちが「三和子さん!」と声を掛けてくれるのも嬉しくて。10年、20年経っても地域の人と関わり合うことの大切さを学びました。

大塚さん 高山校区は住民が少ないので、隣近所や地域との助け合いが大切になります。鈴木さん率いるSKITSや地域、学校などが支え合うことで、つながりも深くなります。そして、高山校区の魅力はなんと言っても「自然」。大自然と共に、地域の絆をこれからも深めていきたいです。

鈴木さん 住んでいるだけで心癒されます。自然のあたたかさに「ほっ」とできるのも、この街の特徴です。季節により風景がガラッと変わり、情緒あふれる景色が広がります。この景色が私たちの1番の宝物ですね。

高山小学校校長
大塚 啓美さん (60歳)

鈴木さん
イチオシ!



高山校区 おすすめスポット



四季折々の風景を眺める

大自然を体感できる高山校区。季節ごとに風景が変わり、写真を撮りたくなるような綺麗な景色が広がります。



春

高山小学校の近くを流れる高山川沿いにある桜並木。近くの姫街道沿いにも多くの桜の木があり、お花見スポットにもなっています。



夏

澄み渡る青空と緑豊かな山々が一面に広がる田んぼ道。昔にタイムスリップしたかのような景色に心躍ります。夏の香りも楽しむことができます。



秋

可憐で美しいコスモスが咲き誇る通学路。ヒガンバナなど季節の花も咲き、秋の情緒あふれる景色に癒されます。



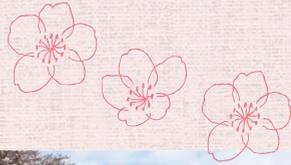
冬

雪が積もった高山小学校。雪国にいるかのような風景は、市内と感じられないくらい! 街中よりも気温が低いのも特徴だそう。

鈴木さんにとって「支える」とは?



今まで、地域の人に支えられてきたからこそ、自分も何かお返しができたらと思っています。生まれ育ったこの校区だから何でもしたいし、地域の人々が喜んでいる姿を見ると私も嬉しくなります。これからもずっと暮らしていく場所なので、自分ができることをこれからも続けていきたいです。

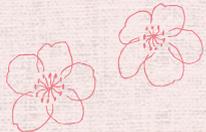
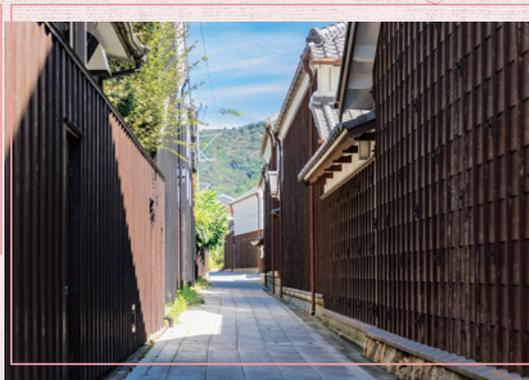
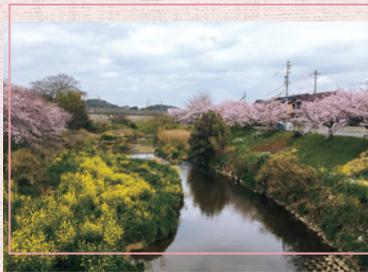


美しい
景観を守る
二川校区

咲き誇る桜を通じて
古き良き街の景観を守り続ける

二川校区を流れる梅田川沿いには、春になるとたくさんの桜が咲き誇り、見る人々を魅了します。「桜の花をもっときれいに咲かせたい。」との想いで、桜の木を手入れする「二川さくら守の会」や花見イベントを立ち上げた梅岡さん。

桜に対する思いや、二川校区のおすすめスポットを紹介します。



Profile

梅岡 愛子さん

生まれてからずっと二川に住む二川大好きな梅岡さん。子供会副会長、PTA婦人部長、校区自治会長などを務め、平成26年に「二川さくら守の会」を立ち上げた。

「桜を生き生きと咲かせ、桜の名所にしたい」

地域のさまざまな役員などを長年務め、二川校区を愛してやまない梅岡さん。桜の手入れを学ぶ勉強会に参加したことが会を発足するきっかけとなりました。「ソメイヨシノの寿命は50年ほど。梅田川沿いの桜は戦後に植えられたため、既に寿命を迎えていることを初めて知りました。」枝の剪定や施肥などきちんと手入れすることで200年以上も寿命を延ばせると学び、「梅田川の桜を守ろう!」と仲間たちに声を掛け、「二川さくら守の会」をス

タートしました。

現在、「二川さくら守の会」では、桜の手入れを行うだけでなく、校区の方々に桜を楽しんでもらうためにイベントなどを開催しています。江戸時代は宿場として栄えていた二川校区。「桜を通じて、美しい景観を次世代につなぐ大切さを、校区全体でこれからも作り上げていきます。」と語ってくれました。



秋になると桜の手入れをします。

高い枝は高所作業車で、丁寧に剪定するからこそ春には美しい桜が咲き誇ります。



クラストコ対談
美しい景観を守る

二川 対談



「二川さくら守の会」のメンバー

梅岡さん 二川さくら守の会のメンバーは、みんな二川のことが大好きな人たちです！

鈴木さん この会に入って、地元の人とお話しする機会が増えました。「二川を良くしたい。」「二川が大好き！」など、この街には私を含めて地元愛が強い人が多いなど実感しました。

尾崎さん 梅田川の桜並木には本当に心癒されます。手入れしているからこそ、桜の時期でなくても青々としているのが特徴。歴史的な街並みと共に桜の素晴らしさも感じてほしいです。

大谷さん 二川は歴史的遺産があり、昔と今とが混在している、市内でも珍しい校区だと思えます。

彦坂さん 二川宿があるので、お祭りが多いのも特徴。山車が街を練り歩く姿は圧巻です！

児玉さん 古いもの、新しいものが共存するのは素晴らしいことですね。また、自然豊かな山「たいまつやま松明山」があるのも魅力ですね。

梅岡さん 市内を一望できる山を抜けて、二川宿や梅田川をウォーキングするのがおすすめです。それぞれ四季折々の景色を楽しむことができるのも良いですよ。松明山から見る初日の出は最高。歴史も自然も両方、二川校区で楽しんでほしいです。



大谷 忠興さん (44歳)

児玉 和久さん (52歳)

尾崎 雅輝さん (39歳)

鈴木 桂子さん (45歳)

彦坂 直政さん

梅岡さん
イチオシ！



二川校区 おすすめスポット



二川ウォーキングスポット

たいまつやま 二川校区には松明山や梅田川など、山と川それぞれの景色が楽しめるウォーキングコースが点在しています。

松明山



住所 大岩町北山



いはいし 伊寶石神社を通り抜けながら頂上へ。頂上までは約45分なので、どなたでも山登りを楽しむことができます。山頂からは市内を一望できます。

梅田川

川沿いに咲く花や並木の変化から、季節を感じながら歩ける梅田川。なだらかな道なので足腰への負担も少なく、楽しく運動することができます。二川宿からも近いので、足を伸ばしてウォーキングするのも◎。



梅岡さんにとって「支える」とは？

支えることは、互いが協力し合うこと。二川は若い世代も、私よりも上の世代もみんなパワーがあり協力的。互いが支え合うことで、そのパワーがさらにプラスされます！これからも、みんなで地域全体を支え合うことができれば嬉しいです。



取材を終えて

最終巻となるクラストコ。今回、さまざまな場所で編集者が体感した「地域との支え合い」、そして、クラストコを通じて感じた「豊橋の魅力」とは。



クラストコ編集部(左)
ウガモト ヨナシロ デミ

豊橋市広報広聴課3年目職員。
就職を機に豊橋へ。

クラストコ編集部(右)
岩下 加奈

豊橋市在住、編集者・ライター。

Profile

街に対する想いから支え合いが生まれる

校区ごとに特色が違い、豊橋の面白さを知った

岩下 豊橋には52の校区があり、今回はその中からピックアップして紹介したのですが、各校区で特色が全く違ってとても楽しかったですね。

ウガモト 二川校区は桜だけでなく、昔ながらの街並みも校区全体で守っており、嵩山校区ではスポーツを通じて、地域が明るくなっていました。前芝校区は小さな街で育つ子どもたちを校区全体で見守っていました。それぞれの特徴を生かした支え方があり、全てが豊橋ならではのなごみと実感しました。

岩下 校区内の絆が強く、皆さん「この街が好きだから!」という想いでいろいろと活動していることも知りました。

ウガモト 津田校区では、子どもと大人が関わる場所を作ることで校区内の絆を強くしたり、天伯校区では高齢化が進む中で知恵とアイデアで校区全体を支え合っていたり。幸区は、「花祭り」があり子どもから大人まで、みんなが花祭りを盛り上げていたのも印象的でした。

岩下 牟呂校区は、お店が協力し合ってイベントを立ち上げたり、豊岡発展会は、岩田運動公園で大きなフェスをしたりとパワフルな団体もたくさんありましたね!花園ぶらすは、愛知大学の学生を中心に若い世代が商店街を盛り上げようと企画をしていて、外の視点から地域を支えるという素晴らしいことも学びました。



地域や人を思いやることで「支える」が生まれる

岩下 今回取材をした方に「あなたにとって“支える”とは?」という質問をしました。皆さん共通していたのが「街が、人が好きだから、支えてもらっているし、支えたい」という言葉でした。

岩下 ずっと暮らしていく地域に自分なりの思いやりがあるからこそ、活動したい、盛り上げたいという気持ちになるのかなと思いました。

ウガモト 私も取材を通して、自分の中で「支える」とは何かと改めて考えましたが、支えるとは「相手を思いやること」と同じように思いました。相手を思いやることができるから、力になってあげられるし、何かしようと思き出すのだなど。

ウガモト そうですね。長く住んでいるからこそ、街や人への想いが増えていき、支える力になっていきますね。



5年間の取材を通して知った豊橋の魅力

クラストコを通じての豊橋の良さ=なんでもある街

岩下 5年間、クラストコの取材をし続けてきて思ったことは、「豊橋ってなんでもあるじゃん」ということ。「なんにもない」と言われますが、なんでもあるからこそ、その良さに気づきにくいのかなと。改めて、豊橋って暮らしやすいなと思いました。



ウガモト 自然が広がる景色、みんなが集う表浜海岸、昔ながらの景色、お祭りなど、さまざまな姿を見せてくれる豊橋には、飽きさせない魅力がたくさんありますね。どの年代でも自分に合った楽しみ方や学びができるし、自分に合った暮らし方ができるのは、なんでもある豊橋だからだと感じる事ができました。



クラストコ

BackNumber

ライフステージに沿った豊橋ならではの女性の暮らし方を提案する

VOL.01 楽しむ
平成29年3月発売

VOL.02 働く
平成30年3月発売

VOL.03 育つ
平成31年3月発売

VOL.04 学ぶ
令和2年3月発売

38

39



クラストコができるまで 『取材の裏側』～支える編～



どこから撮影しているでしょう？
#公園の滑り台の窓から
#カメラチェック



みんなでニコリ♡
#椅子の位置を決めています
#なぜかみんな笑顔



不意打ちにパチリ
#ハイ、ハイ、ハイハイハイ
#あのリズム感で



夏の思い出
#釣り始めました
#毎年恒例暑さ対策万全



取材時はきちんとマスクで
#いろいろな話聞きました
#夏でもマスクが欠かせない



前芝の海から
#綺麗な青空と海
#この日も暑かった



さてここはどこでしょう？
#あの商店街の一角
#ローカル商店街



撮影、狙い撃ち
#写真を撮るところ撮影
#こんな感じで撮影してます



ドローン写真
#集合写真ボツ案
#試し撮り失敗



#クラストコ

本とインスタが連動！
豊橋でのヒトコマを配信しています！

市民の顔や暮らしぶりが見えるヒトコマのほか、取材風景や本の中で使いきれなかった面白ネタなどを画像や動画で紹介しています。「#クラストコ」のハッシュタグをつけて投稿すると、クラストコ賞に輝くかも？



豊橋ライフスタイルブック
クラストコ Instagram
【kurasutoko】



URL: <https://instagram.com/kurasutoko/>



吉田城鉄橋と豊橋市役所



クラストコの世界を体験できる

Instagram クラストコ生配信を開催しました

毎年大人気のクラストコ体験会。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、クラストコのInstagramで4号目の「学ぶ」をテーマに、生配信を行いました。ここでは生配信のようすの一部を紹介します。



クラストコ生配信!

第1弾 よっちゃん流 夜店の楽しみ方 6月19日(金) 17:45~

クラストコVOL.04 p.18~



夜店の気分を味わうために、夕オカを飲みながら配信!



ヤシの実FMの渡辺欣男さんが、事前に募集した夜店に関する質問に答えながら豊橋公園内を歩きました。生配信中でもさまざまな質問やコメントが届き、多くの方と夏の気分を味わいました。



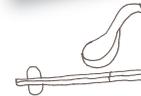
クラストコ生配信!

第3弾 豊橋カレーうどんの裏側 10月22日(木) 17:00~

クラストコVOL.04 p.24~



大将と編集部的女将が配信しました!



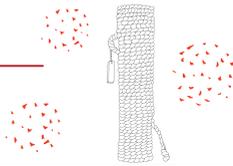
4号目で取材をした「ナザレうどん」が作る豊橋カレーうどんの特徴や作り方について聞きながら、実際に豊橋カレーうどんを提供するまでを生配信。トッピングで笑顔を表する豊橋カレーに視聴者もびっくりしたようでした。



クラストコ生配信!

第2弾 手筒花火 10月3日(土) 18:30~

クラストコVOL.04 p.12~



無観客で披露した手筒花火!



岩田煙友会が、手筒花火を揚げているようすを配信しました。生配信中、手筒花火に関する思い出のコメントが寄せられ、「遠方に住んでいて故郷を思い出した。」など多くの方が手筒花火の迫りに魅了されました。



クラストコ生配信!

第4弾 吉田城体験ツアー 11月21日(土) 10:00~

クラストコVOL.04 p.06~



吉田城のことが勉強できて楽しかった!

文化財サポーターの齊藤希依美さんに吉田城の萌えポイントを紹介してもらいながら、7人の参加者と一緒吉田城を巡りました。ツアー中の「石垣にある刻印」の話を生配信し、ツアー参加者と視聴者がどちらも楽しめるツアーとなりました。





クラストコ

暮らすとこ

MAP

AICHI
TOYOHASHI

VOL.01 楽しむ

VOL.02 働く

VOL.03 育つ

VOL.04 学ぶ

VOL.05 支える



今回で最終号!
今までご愛読
ありがとう
ございました!



編集
後記

企画・発行

豊橋市広報広聴課
水野 希美果

いろんな形で地域を支えている方がいることを知り、支えるとはどういうことなのか考え直すきっかけになりました!

撮影

株式会社鈴木写真館
清水 しげみ

人のつながりとは、ご縁があり巡り合い。皆さんの穏やかで思いやりのある優しさを、身近に知ることができた最終号でした!

撮影

株式会社鈴木写真館
前沢 美憂

同じ市内でも地域それぞれの特色があり、撮影がとても楽しかったです!それを支える方々の熱いお話はとても勉強になりました。

イラスト・DTP・デザイン
ラララデザイン
松本 佳子

校区と人に対する皆さんの思いやりの気持ちがあふれていて、制作しながらとても温かい気持ちになりました。

編集・取材

ALii
岩下 加奈

取材した皆さんが「この街・この校区が大好き!」と言っていたのが印象的でした。お互いに支え合うことの素晴らしさを体感しました。

企画・発行

豊橋市広報広聴課
ウガモト ヨナシロ デミ

取材をしたどの校区もそれぞれの特徴を生かした活動をしており、より一層いい豊橋を目指していました。また新しい豊橋を知りました!

印刷・製本

共和印刷株式会社
森田 正志郎

「支える」にもさまざまな形がありますが、その先には必ず「笑顔」がありました。笑顔があふれる豊橋! 最高です!

おわりに

今回でクラストコは最終号となります。

豊橋でのライフステージに沿った暮らし方を提案してきた中で
最終号の「支える」は、私たちにとって難しいテーマでした。

そんな中、取材を通して地域とのつながりの深さ、互いを想いやる大切さ、
校区ごとで取り組むさまざまな「支え合い」を学びました。

私たちのクラストコ(暮らすところ)は、

ゆしみ、働き、子育てをし、学び、みんなが支え合っている街です。

これからもたくさんの人が豊橋を愛し、

住み続けてくれることを心から願います。

また、どこかでお会いしましょう。



クラストコ編集部

ISBN978-4-9909144-9-3

C0076